



「京都の広域避難者の 3年半を振り返って」

西山祐子さん

避難者と支援者を結ぶ京都ネットワーク
みんなの手代表

テーマ：京都の広域避難者の3年半を振り返って 京都の避難・移住者は1000名ほど。震災から3年半経ち、避難者の状況やニーズも、そして避難者を支える行政や支援団体の支援・受け入れ体制も徐々に変わってきている。これらを振り返り、避難者の今と未来を考えながら、どのように「寄り添えるのか」、話し合える場にしていきたい。①避難者のニーズの変化 ②受け入れ・支援体制 ③みんなの手の活動 ④これからを考える

「札幌の避難者の現状 ～避難から移住へ、その試み～」

穴戸隆子さん

札幌市内の自主避難者コミュニティ・桜会
代表

テーマ：長期化する避難の中で、何の解決策も提示されないまま、社会の意識も、避難者の意識も少しずつ変わってきている。原発事故による避難という「困難」を抱えて、私たち避難者はどのような選択をしてきたのか、これから直面する問題にどのように立ち向かっていくのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

トークセッション：広域連携で紡ぐ新たなつながり

西山祐子（にしやま ゆうこ）福島県福島市出身。仙台・東京で英語講師・通訳等の仕事に従事。出産を機に福島市に戻り子育て中、被災。震災直後に東京へそして2011年6月に京都に3歳の娘と父母と避難。2011年12月に「みんなの手」を発足。避難者への情報発信、ニーズに合わせた支援活動、地域への発信や避難者と地域をつなぐ活動などを行う。昨年、避難者の集い場・コミュニティ作りのためにカフェをオープン。故郷への帰省バスの運行や福島の子どものリフレッシュキャンプなども行う。現在、一般社団法人 みんなの手 代表理事。

講師
紹介

穴戸隆子（ししど たかこ）1972年 福島県双葉郡富岡町生まれ。震災時は福島県伊達市に在住。避難指示区域外だったが、二人の子どもの被曝を懸念し北海道へ自主的に避難。後に夫も合流し、新しい生活を一から立て直し中。以後、自主避難者の立場から、2011年12月の参議院復興特別委員会への参考人招致、2012年ブラジルリオで行われた国際環境会議Rio+20、NGOキャンプへの参加など、積極的に発言している。札幌市内の自主避難者コミュニティ代表。

第24回
一緒に考えましょう講座

と き：2014年12月7日(日)
第24回 午後2時～4時

ところ：北海道大学
スラブ・ユーラシア研究センター
4階大会議室

(札幌市北区北9条西7丁目 札幌駅
北口から北大通りを北へ徒歩約5分。
北大正門から北大構内へ、付属図書館から入り、表示案内板に従って渡り廊下、そして法学部を經由して当センター4階へお越しください)



主催／ 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 家田研究室
お問い合わせ TEL 090-2813-4907 ieda@slav.hokudai.ac.jp
詳細は家田研究室HPの講座日程をご覧ください http://lets-think.com
共催 北海道の自然と命のネットワーク

一緒に 考えましょう講座

この講座は大学と市民をつないで、
東日本大震災後の日本を
共に考える公開講座です。
みなさまのご参加をお待ちしています。

2014年度
後半の予定

会場 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 4階大会議室

12月7日(日)

第24回 午後2時～4時

トーク
セッション

広域連携で紡ぐ
新たなつながり

宍戸隆子さん 札幌市内の自主避難者
コミュニティ・桜会 代表

「札幌の避難者の現状
～避難から移住へ、その試み～」

西山祐子さん 一般社団法人
みんなの手 代表理事

「京都の広域避難者の3年半を振り返って」

主催／ 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 家田研究室
お問い合わせ TEL 090-2813-4907 ieda@slav.hokudai.ac.jp
詳細は家田研究室HPの講座日程をご覧ください <http://lets-think.com>
共催 北海道の自然と命のネットワーク